

「運転中 スマホ操作は 絶対やめて！危険は検索できません」平成29年度最優秀交通安全標語

5月から7月の交通事故の発生はゼロでした。

残暑がいつそう身にこたえる毎日ですが、いかがお過ごしでしょうか。夏場は連日の猛暑などで運転時の注意力が落ちて、それが事故を誘発することもありますので、意識し気を引き締めて運転をしてください。

8月に入り、お盆休みを故郷で迎えるのが楽しみなころとなりました。これからお盆休みや旅行等で高速道路を利用して長距離運転をする機会も増えてくることでしょう。高速道路での事故を防止するためには、交通場面に潜む危険を的確に予測することが大切です。そこで今回は、危険予測運転について考えてみましょう。

一読していただき、安全運転に役立ててください。

I. 危険予測運転

1. 高速道路安全走行の基本

高速道路を安全に走行するための基本的な注意点として、次のようなものがあります。

- ・出発前に、燃料、タイヤの空気圧や溝の深さ、エンジンオイルの量などを点検する。
- ・規制速度を必ず守る。

※高速道路では交通状況によって、速度規制が行われることがよくあります。常に時速100キロ(大型貨物等は時速80キロ)だとも思い込んではいけません。速度標識をよく確認して走行しましょう。

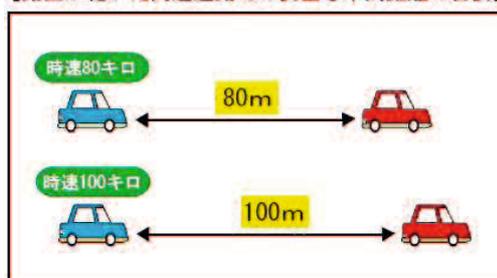
- ・車間距離を十分にとる。

※路面が乾いた高速道路では、速度の数字を距離に置き換えた数字が安全な車間距離とされています。

- ・走行車線を走行し、不要不急の追越しや進路変更はしない。
- ・急ハンドルは急ブレーキは避ける。
- ・ドライバーはもちろん、後部座席を含めた同乗者全員が必ずシートベルトを着用する。
- ・行楽期は大渋滞に巻き込まれるおそれがあるので、十分な飲料水や携帯トイレを用意しておく。
- ・少なくとも2時間に1回の休憩をとる。



【路面が乾いた高速道路での安全な車間距離の目安】



2. 故障停止車両などがあるときの注意点

前方に、故障停止車両や停留所に停車している高速バスがあるときは、その周辺から歩行者が本線車道に出てくる可能性があります。「高速道路には歩行者はいない」という思い込みはせず十分注意し、できればその手前で追越車線へ進路変更しておくのがよいでしょう。進路変更する場合は、必ず後続車の有無を確認しましょう。



3. 風が強いときの注意点

強風時にはハンドルをとられて車が流されることがありますから、吹き流しが真横にたなびいている場所を走行するときは、速度を落とすとともにハンドルをしっかり握り、車が多少流されてもあわてずに、車体を車線内を保つようにしましょう。

4. トンネル接近時の注意点

交通の教則には、「高速でトンネルに入ると、視力が急激に低下するので、あらかじめ手前で速度を落とす」ことが記されています。トンネル接近時は速度を落とすと共に、前車の減速に備えて十分な車間距離をとっておきましょう。なお、急激な減速は追突される危険がありますから、ブレーキを数回に分けて踏むなどして後続車に減速の意図を知らせるようにしましょう。

Ⅱ. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	通勤途中
どこで	狭い十字路で
何をしている時に	右折しようとした時に
どうなった	自転車とぶつかりそうになった

Ⅲ. 今月のスローガン（企業開発センター交通問題研究室）

早めの休憩 適度な仮眠で
疲労を軽減